



〈十文字学園女子大学メディアコミュニケーション学科の学生〉

～女子学生が聞く 男女共同参画社会 Part2～

男女共同参画社会について若い女性たちに考えてもらう機会を作りたいと考え、十文字学園女子大学メディアコミュニケーション学科・石野榮一教授の協力を得て、同大学の学生に市内の事業所へインタビューしていただきました。その一部を抜粋します。

「挑戦すること」が 原動力

十文字学園女子大学副学長
加藤則子さん

十文字学園女子大学の加藤副学長に「男女共同参画」についてインタビューしました。

加藤さんの専門は幼児教育で、小児の身体発育・子どもの発達支援を主に研究されています。

国立保健医療科学院に勤務後、本学幼児教育学科の教授に就任され、平成29年4月からは副学長も兼務されています。

最初から無理だとあきらめない

忙しい毎日を送る加藤さんは、副学長就任に当たって、多くのプレッシャーを感じたそうです。

「初めて仕事に就いた頃は、男性中心の社会にあつて女性である自分がどこまでできるのか不安もありましたが、尊敬している先輩が「大変な仕事であっても、最初から無理だと決めずに、やってみることが大切だ。」と語ってくれたことがあり、その言葉を原動力にして様々なことに取り組んできました。無理だと決めてしまうと、自分の視野が広くなりません。挑戦し経験することで、多くのことを学び、自分の糧になるのではないかと考えています。」と副学長就任についてもそのように考え、引き受けたと話してくださいました。

男女共同参画は、生涯にわたり男女平等意識を育む地域社会づくりや、平等で働きやすい職場をつくり、互いを認め、思いやり、人権を尊重する社会を目指しています。

こうした取組に対して、加藤さんは「これまでの男性主体の社会から、女性も活躍できる場が増え、存在感

も高まってきていると感じています。」と評価しています。本学も「埼玉県多様な働き方実践企業」の認定を得ていますが、「女性教員の出産や育児を応援する態勢が整うことは、教職員だけでなく本学で学ぶ学生にもプラスになるはずですよ。」と語り、「多様な働き方ができる魅力ある大学となるよう、副学長としても尽力したいと考えています。」と決意を語られました。



加藤則子氏

一方で、「残念ですが、世の中の多くの場面で、まだまだ女性が男性より低く扱われることがあります。」とも加藤さんは感じています。

しかし、私たちの大先輩でもある加藤さんをはじめ、多くの女性がくじけることなく、苦労しながら女性の地位を一步一步築き上げてきました。それを引き継いでいくことが私たち若い世代の女性の役割でもあり、男女共同参画社会の実現につながるのだと、加藤さんにお話を伺いながら改めて学びました。

(白石絢、オウ・ビン、小林夏美、植竹優)

女性の力が発揮 できる職場を

社会福祉法人ゆずの木高齢者福祉
総合施設そらーれ新座副施設長
高山良樹さん

社会福祉法人高齢者福祉総合施設そらーれ新座の高山良樹副施設長にお会いし、お話を伺いました。

平林寺の境内林を目の前に臨む「そらーれ新座」は、社会福祉法人「ゆずの木」が、特別養護老人ホームを中心に陣屋クリニック(診療所)、通所リハビリテーション、認可保育園「キッド・ステイ新座保育園」を併設した高齢者福祉総合施設で、「介護・医療・保育」を1か所に集約した施設です。



高山良樹氏

全職員が働きやすい環境づくり

施設全体の職員は、大学生から65歳くらいまで幅広く、そして女性が約8割を占めています。そのため、出産や子育ての面で働きやすい環境づくりを力を入れているそうです。

産休から復職を希望する職員のために、併設した保育園を利用できるようにしてあり、さらに勤務時間も30パターン以上用意し、子育ての生活サイクルに合った働き方ができるように配慮しています。「働きたい

のに働けない女性の人数を減らしていきたいと考えています。」と高山さんは語られていました。



インタビューの様子

また、同施設は埼玉版ウーマノミクスプロジェクトにも参加しています。このプロジェクトは、女性が働き手となり消費や投資の担い手となり、自己実現をしていきいきと輝く社会にすることを狙いにした埼玉県独自の取組で、「多様な働き方実践企業認定制度」や「企業内保育所の整備への支援などがその内容となっています。」

高山さんは、「施設開設から7年目に入り、女性職員が年々増えていることを踏まえ、女性の力を存分に発揮してもらうためプロジェクトに参加したが、参加してからは、より一層子育て世代の職員が増えました。」と変化を挙げ、また「こうした取組をさらに前に進めることが、施設運営の面でも必要だと考えています。」と語られました。

高山さんに、私たち若い世代に向けたアドバイスを、働く上でどのような点に気を付けるべきかなどをお聞きしたところ、「いろいろな仕事があると思いますが、とにかく3か月は頑張ってもらいたいですね。必ず手ごたえをつかめるはずですよ。」と温かな言葉をいただきました。

(徳田みなみ、サイ・キンヨウ、大槻優里奈、坂巻美帆、藤ノ木彩馨)

あとがき

「FOR YOU」には、真の男女共同参画社会実現に向けたメッセージを、全ての人(「FOR YOU」)に発信したいとの願いが込められています。

年2回、春期と秋期に発行しています。

有意義な機会に感謝

メディアコミュニケーション学科で担当する授業企画・インタビュー手法は、インタビューの企画立案から実践、そして原稿作成という一連の流れを学生に体験させ、「コミュニケーション能力を養成することを目的としています。」

今回、新座市男女共同参画推進プラザから男女共同参画情報紙の制作について、学生とコラボレーションできないかというご相談をいただきました。インタビュー実践に絶好の機会であり、学生にとって実社会で活躍されている方々のお話を伺うことができる有意義なご提案と受け止め、授業で取り組むことにしました。

9グループに分かれ市内の方々にお会いしましたが、学生は様にインタビューの難しさを実感したようです。

それでも先輩諸氏の温かな対応に何とかやり遂げることができました。多くのアドバイスをいただきました。働くことの意味を感じ取ったようです。ご協力いただいた皆様方にあらためて感謝申し上げます。

(十文字学園女子大学教授・石野榮一)

編集・問合せ

にぎほっとぷらざ5階
男女共同参画推進プラザ
048-4866-8639